

学習内容と到達目標

☞ 一見科学的なようで、実は科学的な根拠のないことについて話す（迷信、血液型と性格など）。

指導のポイント

**1. INTRODUCTION** 第10課の復習。①と②のマジックをうまく説明できなかった時は、復習を入念に行った上でこの課の学習に入る。

**2. SPEAKING** ①は[3.LISTENING]のプレ・リスニング活動。事前に迷信に対する意見を述べさせたり、学習者同士情報交換させたりすることで内容理解が深まることを期待している。また、話の中に「食べた後すぐ横になると、牛になる」や「夜つめを噛むと、親の死に目に会えない」などの日本の迷信が複数出てくるので、これについても②と③で学習しておく。

**3. LISTENING** まずは①の7つの質問に答えられることが重要。難しく、聞いてもすぐに答えられない時は、まず、アリさんの話が以下のような構成になっていることを理解させることから始める。

1. 迷信の定義と日本の迷信の例
2. 迷信が生まれた理由①：子供のしつけ  
例、「食べた後すぐ横になると、牛になる」など ----- 質問1  
具体的に何を？ ----- 質問2
3. 迷信が生まれた理由②：偶然の重なり ----- 質問3  
例、「黒いネコが前を通ると、不幸なことが起きる」など ----- 質問4
4. 本当だと思っていたら、実は迷信だったこと（科学的な根拠がありそうな迷信）  
例、「なまずが騒ぐと、地震が起きる」など ----- 質問5
5. 迷信（嘘）だと思っていたら、実は本当だったこと  
例、地球が丸いことなど ----- 質問6
6. 科学で大切なこと（科学者と孫の話） ----- 質問7（自由解答）

内容も語彙も決して簡単ではないので、②では十分に時間をとって内容と語彙を確認する。

**4. FOCUS** 迷信に込められた大人たちの意図（すなわち、子供のしつけ）や科学の発展・進歩について述べるために必要な表現（前者は「～てはいけない」、後者は「～ようになる」「～てきた」）を取り上げて練習する。機械的にできてしまう練習が多いので、学習者が文の意味を理解しているか確認しながら練習する。

**5. SPEAKING** アリさんの話の中に出てこなかった他の例を考えさせる。

## **6. LISTENING**

世界最古のSF小説である『竹取物語』の紹介。科学と神秘の両面を併せ持つ物語としてこの課で紹介することにした。この物語を聞かせ、読ませることで、何か新しい表現や語彙を学ばせることを意図しているわけではないので、ストーリーを理解できればOK。

## **7. FOCUS**

新出表現として「～ようとする」を取り上げているが、この話題について話すために不可欠な表現というわけではないので、時間がない場合や、今ここでこれを教えると学習者が混乱してしまうと判断した場合には、省略してかまわない。

## **8. SPEAKING**

『竹取物語』に関連づけて話題を広げるようにする。

### 授業で使えるリソース

- ☞ YouTube で検索すると「竹取物語」や「花さかじいさん」などの物語のアニメーションがアップロードされていることがあるので、[6.LISTENING] で物語を聞いた後に見せると、イメージが膨らみ、学習者の理解もより深まる。